

No. 60

2008 年 3 月 1 日 発行

宇 治 市 中 央 図 書 館
〒611-0023 宇 治 市 折 居 台 1-1
0774 (39) 9256

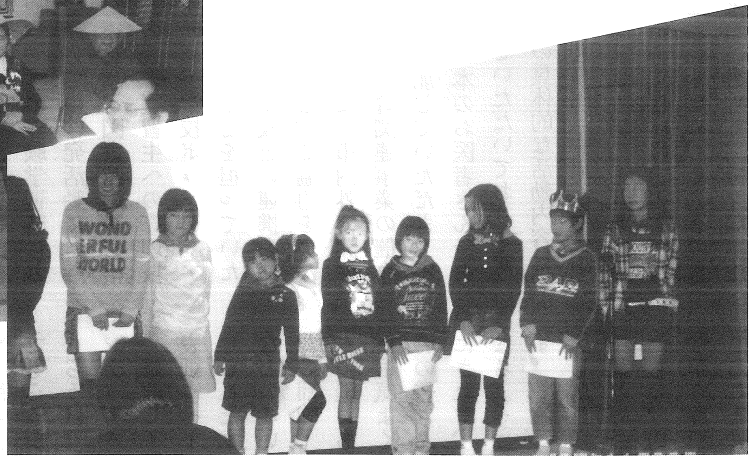
宇 治 市 東 宇 治 図 書 館
〒611-0011 宇 治 市 五 ヶ 庄 三 番 割 36-5
0774 (39) 9182

宇 治 市 西 宇 治 図 書 館
〒611-0042 宇 治 市 小 倉 町 山 際 63-1
西 小 倉 地 域 福 祉 セ ン タ ー 3 階
0774 (39) 9226

と し ょ か ん 宇 治



かさじぞう



めだかおはなし隊の子どもたち

笑顔にあいたくて

朗読サークル「めだか」 奥野智子

朗読サークル「めだか」は、エフエム84.5朗読講座終了と同時に、ボランティアサークルとして、平成十二年十月に発足しました。本を読むことの楽しさ、聴くことの楽しさ、面白さを多くの方たちに伝えたく、これまでの七年間、病院、高齢者施設、高齢者とのじこもり予防のためのBタイプリハビリ、ふれあいサロン、子育てサークル等を訪問してきました。そして月に一度の「子供おはなし会」、一年に一度の「めだか朗読会」これまでにほんとうに多くの人の笑顔に出会いました。その笑顔が私達のエネルギー源となっています。

「おはよう」元気に子供たちが集まってきました。ここは南木幡集会所。月に一度のおはなし会の始まりです。絵本を広げると、みんな目を丸くして、食い入るようになって聴いてくれます。読み聞かせだけではなく、折り紙、牛乳パック工作、ゲーム、リズム遊び等で、二時間楽しく過ごしています。

今年「めだかおはなし隊」を結成しました。八月にはふれあいサロンで、十一月には東宇治図書館主催の朗読会「聴いてたのしむ ことのはのつどい」に、「めだか」と一緒に出演させていただきました。だき、「ひとくち童話」と「星の王子さま」を朗読しました。

「楽しかった」「緊張した」「みんなとてもいい笑顔でした。「本は心の栄養」たくさん絵本や童話を読んで、心豊かに、想像力豊かな子に育ててほしいと願いつつ……私も子供たちと一緒に成長できればと思っています。

手作りの面と笠を持って、Bタイプリハビリを訪問したときのこと。ここは毎年、劇遊びで楽しんでいただいています。今年「かさじぞう」、笠をかぶってすまし顔のかわいいおじぞうさん。うさぎ、ねずみ、きつねの面をかぶったボランティアさんたちが恥ずかしいやら、うれしいやら、子供のように大はしゃぎでした。

めだか結成から七年、これまで多くの方に支えられてきました。図書館、社会福祉協議会、ボランティア活動センター、指導いただいた先生方、子供たちのお父さん、お母さん、皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れることなく、今後も変わることなく、ボランティア活動に励んで、多くの方に本を読む楽しさ、聴く楽しさ、面白さを伝えていきたいと思っています。

「本のお医者さん」 について



中央図書館係長 長村昌信

中央図書館には、「本のお医者さん」がおられ、図書館にある本の主治医をしてもらっています。

このお医者さんたちの正体は、図書館登録サークルの一つである「本の修理ボランティア」のメンバーの皆様です。ほとんど毎週金曜日の午前十時から約二時間、中央図書館に往診に来ていただき、様々な理由により破損した本の治療をしています。

それでは、その活動の一端を紹介しましょう。



平成十一年一月二十二日に開催された「本の修理講習会」を受講した有志十二名により、同年二月五日から活動を開始され、平成十六年一月から二月にかけて開催された第二回「本の修理講習会」や平成十九年二月に開催された講習会にも参加していただき、常にその技術の向上をはかられています。

現在メンバーは二十二名で、毎週金曜日の中央図書館での修理ボランティア活動の他にも、小学生の図書館見学会や中学生の体験学習時における実演を通じての啓発活動に寄与していただいたり、図書館司書資格取得のための大学実習生への修理技術の指導を始め、学校ボランティアへの出張修理指導などを担っていたり、学校との連携を深めるための事業にも、ご協力をいただいています。また、市内外で開催される各種社会教育関連事業の催物にも積極的に参加していただき、宇治の図書館に「本のお医者さん」という評価をいただいております。

を用いて修理していただき、本の延命をしていただいています。

傷ついた本には、鉛筆やボールペンなどでの落書きや書き込みをされたもの、汚されたもの、水にぬらされたもの、切り取られたもの、ページの取れかかったもの、かじられたものなど、また、ページがはずれたり、破れたのでセロテープを適当に張り合わせて返却される本などがあります。このような本は、「破損状態を簡単に記したメモを本にはさんでもらうか、返却時にその旨伝えてもらおうかが修理しやすい」とボランティアさんからご指摘を受けます。

修理していただいている本の中で、表紙やページの取れかかった本・かじられた本は、ボンド・紐や糸のこなどいろいろな用具を使いながら、背の補強・見返しをつけたり、また、本の縫いあわせをするなどして丹念に根気よく修理していただき、利用者の方々に貸し出しができる状態にされて、本の寿命が一日でも長くなるように努力をしてもらっています。

しかし、消すことの出来ない筆記具などでの落書きや書き込みをされたもの、切り取られたものは、残念ながら廃棄処分にし、本の生命を閉じることとなります。

このようなマナーを守らない一部の利用者によって、市民の大切な財産であります図書館の本が貸し出しできなくなることは、非常に悲しく残念としか言いようがありません。

本の修理ボランティアの皆様による長年の地道な活動が、市民の大切な本の寿命を延ばしていただいていることを、是非とも利用者の皆様に知っていただくと共に、図書館を支援していただいている重要な活動に對しまして、改めて感謝を申し上げます。

また、市立図書館では、限られた図書購入費の中から、最新の資料提供を行い、図書館利用者からいただく多くのリクエストに答えていくよう努力をしていますとともに、除籍した本の中から、大切な生命を引き継いでいただくためリサイクル本として、年一回秋に開催しています「リサイクル市」におきまして、市民の皆さんに無料で提供させていただいております。

図書館の利用者の皆様、どうかこれからもできる限り「本のお医者さん」の治療を受けないで済むように、本を大切にしてくださいませますようお願いいたします。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第46回

浦野 ころろ さん



今回は、西宇治図書館をよく利用されている浦野ころろさんにお話をうかがいました。浦野さんは、現在、宇治市学校図書館司書として北小倉小学校に勤務。同校以外にも月二回ほど、担当されている三小小学校の巡回支援をされています。

Q いつごろから図書館を利用されていますか。

A 私自身は、幼いころから両親に連れられてよく中央図書館を利用していました。学校図書館司書として働くようになり、今年度から北小倉小学校勤務になったので学校から近い西宇治図書館を利用しています。

Q 最近の利用状況はどうですか。

A 今年度より、市立図書館から学校図書館への団体貸出制度が始まりました。北小倉小学校では、月に一度、児童の調べ学習用と朝読書用の図書を合わせて五十冊借りています。図書館で借りる本は、種類も多く、子どもたちの読みたい本がそろっていると感じています。

Q 学校図書館司書として活動されていますがどんな取り組みをされているのでしょうか。

A 学校図書館司書の活動は、図書の貸出・返却や児童・教員へのレファレンス、絵本の読み聞かせ、ブックトーク、学習内容に合わせた図書資料の提供と美にさまざまです。また、新刊本の選定や装丁処理、図書の修理など、学校図書館の環境整備に関することも司書教諭の先生と相談し、

図書館ボランティアの方とも連携しながら行っています。そして、子どもたちには、年齢と個性に合った本を提供するよう心がけています。

Q 学校での読書活動の様子ははどうですか。

A 受け持ちの学校を回っていて感じるのは、お話(物語)好きの子どもたちが増えてきていることです。市内の小・中学校では平成十三年度から朝読書に取り組んできました。また、各学校でも読書に関するいろいろな取り組みがされ、子どもたちが本好きになるよう一定の効果をおげていると感じます。その一方で、高学年、中学生になるにつれ、読書離れが進んでいるように思います。

Q 平成十九年三月に「宇治市子ども読書活動推進計画」が策定され、五月より、市立図書館から学校への団体貸出がスタートしました。この取り組みによって以前と変化したところはありますか。

A 今まで、調べ学習などで本を使いたい場合、図書館司書や先生の個人の貸出券でしか市立図書館から本を借りることができませんでした。だから学校としての貸出券ができたのはとてもうれしいです。冊数も一

般利用者の場合、一人十冊までですが、一校五十冊まで借りることができるのでとても重宝しています。

Q 団体貸出で借りた本をどのように利用されていますか。

A 北小倉小学校には、現在六千冊程度の蔵書があります。しかし、調べ学習に使うには情報が古かったり、冊数が足りなかったりすることもあります。また、ふだん子どもたちが読みたい本すべてに対応できているわけではないかもしれません。そこで、団体貸出制度を利用しています。学校がない、調べ学習用や朝読書用の本を借りています。

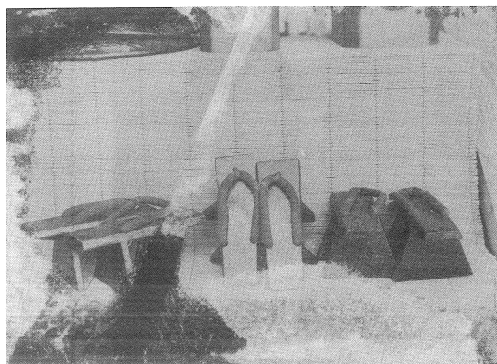
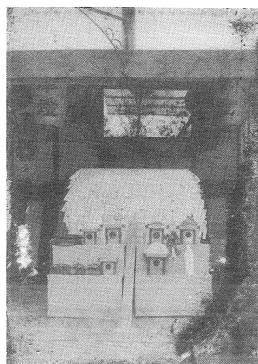
Q 今後、学校との連携も含めて、市立図書館はどんなふうになればよいと思われませんか。

A 学校と市立図書館との連携は、団体貸出以外にも合同で研修をしたり、職員同士の連絡会を持つたりと少しずつ始まっています。子どもたちにとってよりよい読書環境づくりが進み、本に親しむ機会がさらに増えるよう、今後ますます相互の連携が深まることを期待しています。
どうもありがとうございました。

本棚の中の宇治

謎の大下駄

今回紹介するのは国際日本文化研究センターが出版した本、と言ってもお堅い学術書ではなく『所蔵古写真カタログ その1』（請求



記号740・シ・1)。同センター

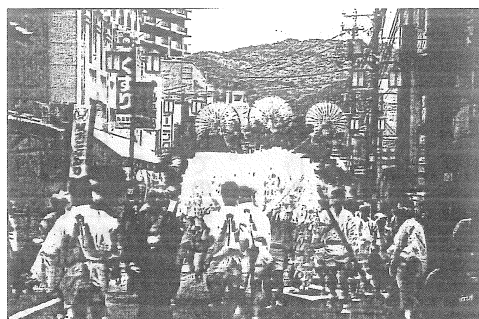
が収集した、明治から昭和初期にかけて撮影された古写真を紹介している。なかでも我々が身近に感じられるのは、京都の祭礼や風景が収録された部分だ。宇治近郊では、正月十四日の夜に行われる日野裸踊り。下帯ひとつで踊る子どもたちの様子は変わらないが、見物人がすべて和服姿というところが時代が感じられる。

さて大下駄など上に掲げた写真も同書に収録されたもの。下駄は左の写真の祭壇一段目左端にも見える。どうやら撮影者は、様々な供物などから特に下駄に興味をそそられたようだ。

裸踊りの場合、撮影データ・地域の項目に「日本、京都、伏見、日野」と詳しいが、これらには「日本」と記されるのみ。つまりどここの何という行事に使われたものかわからない、というのだ。

けれども、本誌読者なら十人に

ひとりぐらいいは見覚えがあるのではないか。「宇治市宇治」に住む方なら、より確立が高くなるだろう。下駄はともかく、左の大きな御幣を見れば一目瞭然。県祭りの少しあと、毎年六月八日に宇治の街を練り歩く大弊神事の大弊だ。一の坂を馬が駆け上がるのも、呼び物のひとつ。神事については宇治市歴史資料館『宇治の名宝』（請求記号K708・ウ）に詳しくい。



宇治橋通りを行く大弊

利用案内

・市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、貸出券を作ること
で一人十冊三週間、本が借りられます。
貸出券は全館共通です。図書館で借り
た本は市内のどこの図書館へも返却す
ることが出来ます。

・図書館は九時から十七時まで開館して
います。休館日は毎週月曜日、第四木
曜日（いずれも祝日の場合は翌日）、
祝日の翌日（土・日曜日の場合は平日
に振替）、年末年始です。

・予約された本を市内四カ所の公共施設
（木幡公民館、槇島コミュニティセン
ター、南宇治コミュニティセンター、
開地域福祉センター）で受け取ること
ができます。毎週一回、木曜日の午後
に搬送します。

・図書館で借りた本は公共施設へ返却す
ることはできません。

あとかき

地球温暖化がいられています。
今年の冬も、春の天候になった
かと思えば寒波の襲来と、やはり
異常気象なのでしょうが？
くれぐれもからだには注意して、
今年も元気に、図書館に足を運ん
で下さい。
お待ちしております。